

第1回有識者合同ヒアリングの主なご意見と対応策

分類	審議時のご意見	対応策
デザインコンセプト	外部景観については、小網代湾内からの眺望だけでなく、集落からの見え方等についても確認することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ VR（バーチャルリアリティー）について、次のとおり機能を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の人の視野角により近いとされる焦点距離35mmのVRを追加しました。</li> <li>・市道を利用する方のシークエンス景観（車窓からの眺望）について、アニメーションとして作成しました。</li> </ul> </li> </ul>
	橋脚と市道があまりにも近いと、橋の下を通る時の見通しが悪くなるため、CG等で確認・検討してほしい。	
美観対策	雨だれで部分的に汚れることをなるべく防げるよう検討してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地覆天端の内側（歩道側）への排水勾配を設けるとともに、地覆下にも水切りを設けることとしました。</li> </ul>
照明	可能な限り光源を少なくするとともに、明るさも抑えて、生物と生態系に対する影響を最小限に留めていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 柱照明に比べて周囲への光の拡散が少ない高欄照明を採用しました。</li> <li>○ 「道路照明施設設置基準・同解説」に規定された基準照度又は輝度を確保する一方、環境に応じて明るさを抑えることのできる調光機能を搭載したLED照明を製品を採用しました。</li> </ul>
半島上の利活用	せつかく歩道を整備するのであれば、これまでできなかった回遊性が確保できるようにすると、より積極的な地域貢献になると考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 半島上の利活用について次のとおり検討しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・西海岸線がもたらす回遊性の確認。</li> <li>・小網代の森の散策路への接続。</li> <li>・橋梁から半島上への昇降施設の設置。</li> <li>・半島上先端における眺望スペースの設置。</li> </ul> </li> <li>○ 半島上の利活用については、周辺にある自然公園の将来的な運営とも関係することから、関係各所の意見をいただきながら、橋梁詳細設計を終えた後も検討を継続してまいります。</li> </ul>
	面積もあり、アプローチも良いため、身近なところで人と自然が共生していける場として良いと思う。	
	散策のための通路を設けて、子供たちの学習の場ができると、良い森になると思う。	
眺望スペース	投物防止柵については、なるべく眺望を阻害しないようなものを検討していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 維持管理の容易性及び経済性に配慮した結果、メッシュパネルを採用しました。</li> </ul>
	眺望スペースとして、橋梁上部に張り出しをつくる方法は、外部景観的にあまり好ましくない。4mの歩道内で収めたほうが良い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 次のとおり橋梁上に眺望スペースを設けることとしました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・眺望スペースは、外部景観を阻害しないよう、張出しのない形式を採用しました。</li> <li>・眺望スペースの高欄及び投物防止柵は、透明板を採用しました。</li> </ul> </li> </ul>
環境保全措置	キンランは、外生菌根への依存度が高く、移植が難しい。菌根であるコナラと一緒に植えることが一つの可能性としてある。移植のときは、コナラの幼木と抱き合わせて移植すること、またコナラはある程度光環境が良い所でないと育たないため光環境の良いところに移植することが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 移植の際にコナラの幼木等の菌根菌と抱き合わせて移植します。</li> </ul>
再生計画	つる植物に対する防衛策として、常緑の木を植えた後、その周りに成長の早いハコネウツギ、オオバヤシャブシなどの中低木でガードすることも考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 常緑木とともに中低木を併せて植栽します。</li> </ul>
	ホソバカナワラビースダジイ群集の植樹によってある程度森の形になってきた後、第2段階の補植として、三浦半島から既に消えてしまった植物（イズセンリョウ、ハナミョウガ、ホソバカナワラビ、タイミンタチバナなど）を入れ、本来の自然の姿に戻すと非常に安定したこの地の極相林の状態まで持っていけるのではないのかなと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 橋梁工事竣工後の段階的な補植については、その当時の状況に応じた対応となることから、橋梁詳細設計を終えた後も、検討を継続してまいります。</li> </ul>
地域活動	潜在自然植生の再生にあたっては、地域の人でも参加できるプログラムを考えられると良い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 過去に県が実施した植樹イベント等を参考にしながら、取り組んでまいります。</li> </ul>